

料金別納郵便



備前 高島聡平 展

—焼締陶に挑む—

令和8年9月3日(木)~8日(火) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日8日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

陶歴 平成 3 年 北海道釧路市に生まれる
平成 26 年 道都大学(現 星槎道都大学) デザイン学科 卒業 伊勢崎 淳に師事
平成 28 年 岡山県美術展覧会 入選(平成 30 年、令和元年)、奨励賞(平成 29 年)
平成 29 年 第 34 回 田部美術館「茶の湯の造形展」入選(令和 2、3、4 年)
平成 30 年 第 5 回 陶美展 奨励賞、日本伝統工芸展 中国支部展 入選
令和 元年 第 12 回 現代茶陶展 入選(令和 2、4、5、6 年)、現在形の陶芸 萩大賞展 V 佳作
令和 2 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展 奨励賞
令和 4 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 展受賞記念 個展(柿傳ギャラリー)
現在、岡山県 瀬戸内市 牛窓町長浜にて制作

備前焼の高島聡平は北海道釧路市出身。人間国宝・伊勢崎 淳に師事し、備前焼の未来を担う期待の陶芸家である。今展に出品の茶碗には、角作りの《緋襷茶盃》と腰の丸い半筒型の《窯変茶盃》の二種類のタイプがあり、両盃とも光悦茶碗を彷彿とさせる。前者は備前焼の特性である土の質感と緋襷の美しさを追求した轆轤茶盃で、後者は窯変による力強い表現を追求した手捻茶盃である。土は目の細かい田土を用いたものと、目の粗いざっくりとした山土を混ぜたものがあり、山土の茶盃はやや厚めに出来ている。DMの《緋襷茶盃》は表面に篋目が入り、見込の茶溜まりも丁寧に造られている。林屋晴三先生と札幌に出掛けたとき、「北海道には焼締陶が合うんだけどなあ」と言われた言葉が忘れられない。北海道出身で、光悦茶碗に憧れ、本格的に焼締陶に挑戦している高島の姿を知ったならば、どんなにカ期待したに違いない。

森孝一(美術評論家・日本陶磁協会 常任理事)

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

公式 Instagram



160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル B2 階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com



